

認知症の方への接し方～本人の困り事編～

驚かせない ・ 急がせない ・ 自尊心を傷つけない

事例① 同じ事を何度も聞く

鍵はどこにしまったっけ？

- 良い例
「それなら、玄関の引き出しに入っていますよ。」
- ×悪い例
「さっき説明したでしょ！」



ついさっき聞いたことでも、記憶が抜け落ちてしまい、聞いたこと自体を忘れてしまいます。

⇒怒鳴る、否定するなどで本人の自尊心を傷つけないようにしましょう。

事例② ごはんを食べたのに食べていないと言う

ごはんまだかなあ？

- 良い例
「お腹空いたね。今作っているから、これでも食べて待っていてね。」
- ×悪い例
「さっき食べたでしょ！」
「食べたこと忘れたの?!」



食事のメニューではなく、食べたこと自体を忘れてたり、満腹感を得にくくなります。

⇒事実を説明して、説得するのではなく、本人が受け入れやすい言葉がけにより、納得できるよう優しく対応しましょう。

事例③ 財布を盗まれたと言い出す

財布がない！
あんたが盗ったんでしょ!!

- 良い例
「大変！一緒に探しましょう。」
「見つかって良かったね。」
- ×悪い例
「どこかになくしたんでしょ！」
「ほらここにあるじゃない！」



本人がしまい忘れているだけの場合がほとんどですが、その自覚がありません。お世話をしている身近な人が疑われてしまいます。

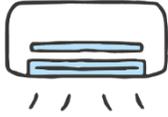
⇒怒ったり、反論したりせず、本人の気持ちを一旦受け止め、一緒に探して、見つけられるようにしましょう。

暮らしの工夫

大切な約束や大事な連絡先は
決まった方法でメモに書いておく。



カレンダーで日付を
毎日確認する習慣をつける。
1日の予定を書いておくと
次の行動に困らずに済みます。



家電タイマーの活用。

日にち時計の活用。



家の中で必要なものを
どこに片付けたか分かりやすく
見出しシールを貼っておくと便利。

物の置き場所を決める。

中身が見えやすい
透明の袋に入れる。

薬をまとめたり、
お薬カレンダーに薬をセットして
飲み忘れを防ぐ。



連絡先や配慮してほしいことを
書いたものを身に着けておくと
安心。

静かでリラックスできる
場所や環境を持つ。

いつも持ち歩くものは
ひとまとめにして、
置く場所を決めておく。



電化製品が使いやすいように
スイッチに目印をつける。

一度にたくさんのことを
同時に片付けようとしない。



★本人へのメッセージ★

- ・なにかおかしいと感じた時は、一人で抱え込まず、かかりつけ医や地域包括支援センターに早めに相談しましょう。
- ・地域包括支援センターや担当のケアマネジャーに相談し、介護保険の通所サービスや認知症カフェなど人との交流が楽しめる場所を紹介してもらいましょう。